

“ 工藤勇一の挑戦 ” 「定期テスト」「宿題」廃止!?

首相官邸や国会議事堂にほど近い東京のど真ん中、千代田区平河町にある区立麴町中学校。古くから名門として知られる、この中学の校長になって5年目の工藤勇一氏が今、日本の教育界を大きく揺さぶり続けている。口ぐせは「目的と手段をはき違えるな」。定期テストや宿題を廃止し、固定担任制をやめて全員が担任になる「全員担任制」を導入。既成概念を打ち破り、ビジネス的な手法をも大胆に導入して、公立中学としては画期的な改革を次々に行っている。

ここまでの改革で子どもたちはどう変わったか、また工藤校長が目指すものは何か、校長自身へのインタビューと丹念な周辺取材で解き明かす。1年半に及ぶ取材の中で、工藤校長が繰り返し強調されていた印象的な言葉があります。「誰かを批判することからは何も生まれない」、「とことん対話することが大事」、「社会や組織を変えたい」と考えているすべての人にお届けしたい書籍です。

第1章 世の中まんざらでもない。結構大人って素敵だ!

- ・「話を聞きなさい」なんて指導は、本当は間違っている
- ・教育現場にはびこる「目的と手段の履き違え」
- ・対立は悪じゃない、無理に仲良くしなくたっていい 他

第2章 行政まで動かした改革者の横顔

- ・少年鑑別所に収容された生徒との再会
- ・校則に関するやり取り自体が「時間の無駄」
- ・教育委員会の都合は最後に考えよう 他

第3章 「自律」の力を身につけた生徒たち

- ・社会に出たら、何もかも指示されるなんてことはない
- ・決まりごとを否定していくことで、より良いものが生まれる
- ・修学旅行を変えたら、大人顔負けの「企画とプレゼン」が生まれた 他

第4章 保護者も学校を変えられる

- ・親や先生の言うことばかり聞くようなら、危機感を持った方がいい
- ・子どもに劣等感を持たせてはいけない
- ・「学びの機会」を奪わないために 他



「目的思考で学びが変わる」〈著：多田慎介〉



工藤 勇一(くどう ゆういち) 千代田区立麴町中学校校長 1960年山形県鶴岡市生まれ
東京理科大学卒。山形県・東京都の中学校教諭、新宿区教育委員会指導課長などを経て、2014年4月より現職。現在は安倍首相の私的諮問機関である「教育再生実行会議」の委員をはじめ、経産省「EdTech委員」、産官学の有志が集う「教育長・校長プラットフォーム」発起人など多数の公職についている。